



## 巻頭言

医療法人社団英明会 大西脳神経外科病院  
院長・理事長 大西英之

五月晴れの日が続いています。院長室から眺める淡路島、明石海峡はのどかで、播磨灘の静かな水面が太陽に照らされダイヤモンドのように輝いています。今年はほっとしているせいか、殊のほか自然が美しく感じられます。

さて、昨年 2015 年は 7 月に第 18 回日本臨床脳神経外科学会を神戸で開催し、10 月に第 4 回日本・ネパール脳神経外科学会をカトマンズで開催しました。いずれの学会も大変成功裏に終えることができ、多くの人からお褒めの言葉をいただきましたが、これも共に頑張ってくれた職員のおかげとっております。一民間病院が年に 2 回もの大きな学会を開催することができましたのも院外の多くの皆様のご援助があったからと心から感謝いたしております。有難うございました。それぞれの学会報告は別途述べさせていただきます。



【第 4 回日本・ネパール脳神経外科学会 カトマンズにて】



【第 18 回日本臨床脳神経外科学会にて 職員集合して】

昨年末から地域医療構想が策定され、東播磨地域においても急性期病床が過剰、回復期病床が不足となりその変換に向かって動きつつあります。国民総福祉・医療費が 40 兆円を超え、国家財政を圧迫しています。このままではさらに進行する高齢者医療費を賄える財源がありませんので、消費税を上げたり、効率の良い医療への転換が必要なことは十分理解できますが、患者側の立場であるべき医師としては医療の切り捨てが起こらないように願わずにはおられません。無駄のない医療をすべての医師、すべての国民が自覚し、少しでも病気にならないように健康に注意した生活習慣の改善の運動がこの国全体で動き出すことを期待しています。